

子供たちに伝えたい日本のよさ

『世界が認めた日本のマナー』 — 試合終了後の行動に世界が称賛 —

現在、「FIFA女子ワールドカップ カナダ2015」が開催されており、世界中のサッカーファンの注目が集まっています。

昨年開催された、「FIFAワールドカップ ブラジル2014」で日本代表チームはグループリーグを突破することはできませんでした。それでも、試合終了後に日本代表チームのサポーターが、応援のために使用したビニール袋を持ってスタンドのごみを拾い、後片付けをする姿は、多くのメディアで取り上げられ、日本代表チームのサポーターのマナーの良さに世界中から称賛の声が送られました。



大会終了後、W杯開催国であったブラジルでは、感銘を受けたクラブチームが、日本代表チームのサポーターのマナーの良さを見習おうと、試合終了後にスタジアムのごみ拾いをするキャンペーンなどを行っています。



今では、試合終了後、袋を持ち、ごみを拾うサポーターの姿が各地で見られるようになりました。

【このような場面での活用が考えられます。】

- 朝礼の講話
- 関連する授業や道徳の授業の導入での話題提供やまとめでの説話
- 学校だよりや学級だよりのコラム
- 学年集会や学校行事等での講話 等

今月のテーマ ～世界が認めた日本のマナー～

学校などの公共施設で、使った物は片付けるということは、当たり前習慣となっています。

この私たちにとって当たり前の習慣が、海外で大変高く評価され、話題となった事例があります。改めて、使ったものは片付けるという、私たちにとって当たり前の行動の大切さを見つめ直し、これからも継続していきたいです。

南米ブラジルで開催された「FIFAワールドカップ ブラジル2014」で、日本代表チームの試合後に、日本代表チームのサポーターが観客席のごみ拾いをしたことをたたえるため、リオデジャネイロ州政府は、在リオデジャネイロ日本国総領事などに表彰状を渡しました。

予選リーグで敗退した日本代表チームは、リオデジャネイロの競技場を会場とした試合はありませんでしたが、政府関係者によると、2年後のリオデジャネイロ五輪でも観客に見習ってほしいという思いから表彰することにしたそうです。

W杯の試合が行われてきた各地では、試合に負けたチームのサポーターらがごみを放置して帰る様子が目立ち、五輪を控えたリオデジャネイロでは、環境浄化対策が検討されていました。

インターネットや各国のメディアで、日本代表チームのサポーターがごみを拾う行動が話題になったのは、平成26年（2014年）6月14日にブラジルの都市レシフェで行われた、初戦の対コートジボワール戦でした。試合終了後、客席を日本代表チームのユニホームと同じ青色に染めるために使ったビニール袋を利用し、数百人のサポーターが、飲食物の包装紙などのごみを拾い、後片付けをしてからスタジアムを後にしました。

ブラジル地元紙は、そうした行為を「（日本代表チームは）敗北したが、応援団のカリスマ性はブラジル人の心をつかんだ。」と報道するなど、称賛の声が上がりました。日本代表チームのサポーターが試合後にごみを拾う姿は、平成10年（1998年）のW杯フランス大会から話題となっていました。今回の報道等をとおして、世界から注目を集めることとなりました。

日本の伝統・文化紹介

【「大江戸」から「東京」へ】



私たちが住む東京は、かつての江戸城の城下町でした。江戸城は、長祿元年（1457年）に太田道灌（おおたどうかん）によって築かれたましたが、後に徳川家康が江戸で幕府を開いたことから、江戸は都市として飛躍的に発展していくことになります。

17世紀初頭、およそ15万人だった江戸の人口は、18世紀初めには、百万人にふくれあがりました。この人口は、当時から既にヨーロッパで最大の都市であったロンドンやパリを上回る規模です。江戸が世界最大規模の都市に発展した頃、江戸に住む人々の間で「大江戸」という言葉が使われ始めたと言われていています。人々や物資が集まる都市・江戸では様々な文化も花開きました。

大都市へと発展し、江戸の町では多くの人々が生活をしていましたが、人々の間には、古紙再生に限らず使えるものは修理・再生しながら最後まで使うという考えが定着していたため、ごみは少なく町並みはとてもきれいで、江戸を訪れた外国人は、町の清潔さに驚いたそうです。

※様々な文献資料は、都立中央図書館で閲覧することができます。



特色ある取組

【小笠原村立小笠原中学校】

「郷土講座」



無人焼き

毎年、3年生の卒業式後に、1・2年生が総合的な学習の時間で「郷土おがさわら」を学んでいます。地域の方々と交流し、島の素材を活かしたものづくりを体験する教育活動を通して、郷土文化に関する知識と技能を深めています。

【内容】地域の方が講師です。

- ・イカバケ作り（イカ釣り用の疑似えさ）
- ・タコノ葉細工
- ・ガラスコップづくり
- ・お菓子作り
- ・彩赤土（はに）染めTシャツ
- ・紙すき
- ・無人焼き



タコノ葉細工

伝統・文化に関するイベント等

★都立多摩図書館



○児童エリアミニ展示「本で日本を旅しよう」その2 …… 日本の“祭り”
多摩図書館の児童エリアでは、今年度「本で日本を旅しよう」というコンセプトで展示を行っています。第1回目の「日本の“有名なもの”」に続き、6月からは「日本の“祭り”」をテーマに、『えほん ねぶた』『祇園祭』など、各地のお祭りを知る絵本から、『和太鼓を打とう』『はなびのはなし』など、お祭りに欠かせない風物詩についての本まで、幅広く展示しています。

- ・『えほん ねぶた』（あべ弘士 作・絵，学研教育出版）
- ・『祇園祭』（田島征彦 作，童心社）
- ・『和太鼓を打とう』（浅野太鼓文化研究所 監修，ほるぷ出版）
- ・『はなびのはなし』（たかとうしょうはち さく，福音館書店）

○青少年エリアミニ展示「明治日本の産業革命遺産」「BONSAI 盆栽」「森の仕事」

青少年エリアでは引き続き「BONSAI 盆栽」「森の仕事」の展示を行っています。また、「世界文化遺産登録勧告 明治日本の産業革命遺産！」として、「産業遺産 時を超えて輝く ニッポン近代化の所産を巡る」（日刊工業新聞編 日刊工業新聞社）や「日本の産業遺産図鑑 これだけは見ておきたい」（二村悟著 小野吉彦写真 平凡社）などの本を展示しています。

★都立中央図書館

○企画展示「東京に集う聖火ー1964年東京オリンピック聖火リレーをたどるー」

（平成27年7月5日（日）から8月31日（月）まで 午前10時から
午後5時30分まで 4階企画展示室）

1964年東京オリンピック聖火リレーにおいて、聖火は沖縄に到着した後、4つに分かれて全都道府県をめぐり、皇居前で再び一つになって国立競技場に灯されました。本展示では、聖火に関するエピソードや、当時のにぎわいのほか、聖火が駆け抜けた地域の名所や歴史・文化などを、所蔵資料や当時の写真等で紹介します。



○2020年へ向けての応援シリーズ ミニ展示「カザンからリオ五輪へ」

（平成27年8月5日（水）まで開催中 3階人文科学系資料・閲覧室入口）

今年7～8月にロシアのカザンで行われる世界水泳の競泳個人種目で優勝した選手は、リオ五輪の代表選手に内定するとされており、今後の活躍が注目される水泳選手を所蔵資料で紹介しています。

○美術情報棚展示「アール・デコの世界」

（平成27年8月5日（水）まで開催中 3階人文科学系資料・閲覧室）

港区の東京都庭園美術館で開催されている展覧会「アール・デコの邸宅 美術館建築をみる 2015/ART DECO COLLECTORS」に関連して、アール・デコに関する図書を紹介しています。ファッションや建築など、多様な分野にわたる装飾美術をお楽しみください。



※本資料に対する御意見・御感想や、本資料の活用実践等がありましたら、以下担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきたいと考えております。

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課

03-5320-6869